

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	課長補佐	係長	記録

【所属名：市教育委員会事務局生涯学習課図書館係】
【会議名：第3次糸魚川市子ども読書活動推進計画
第2回策定委員会】

<input checked="" type="checkbox"/> 開示
<input type="checkbox"/> 一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)
<input type="checkbox"/> 不開示
<input type="checkbox"/> 時限不開示 (開示: 年 月 日)

会議録

作成日 令和5年10月27日(金)

日	令和5年10月20日(金)	時間	10:00 ~ 12:00	場所	糸魚川地区公民館 1階中研修室
件名	(議題) 第3次糸魚川市子ども読書活動推進計画の策定について				
出席者	【出席委員】 8名 (敬称略) 辻村 貴洋、関原 和人、小山 智穂、福原 政子、磯谷 芳子、朝日 仁美、 伊藤 麗美、山本 裕美 (欠席者：川合 真生、富澤 博子、川合 弥嘉) 【事務局】 生涯学習課：山本課長、伊藤課長補佐、七澤主査、大西主任主事 (欠席) こども課：山岸園長、山中センター長				
	傍聴者定員	5人	傍聴者数	0人	

会議要旨

進行：事務局

1 開会 (10:00)

2 挨拶 課長、委員長

3 協議

(1) 聞き取り内容の共有

委員：聞き取りした高等学校の学校図書館利用者が1日2～3人とのことだが、入館者数なのか、利用者数なのか。

委員：入館者数。閲覧のみや学習利用も含むもの。

委員：糸魚川市の中学校に司書はいないのか。

事務局：兼任という形で入っている。

委員：中学校で朝読書はしているのか。

事務局：小学校については聞きとったが、中学校については状況を確認し報告する。

委員：朝読書の実施は学校により様々だと思う。小学校は朝の時間に朝読書の他にやることが増えているのが現状で、朝以外の隙間時間に読書をしている学校が多いのでは。

(2) 第3次計画の方向性の確認

(取組の方向性について)

委員：妊婦さんだけではなく、お父さんなど周りの大人も啓発対象に含めて良いのでは。全体的に女性に対するアプローチが多い印象を受ける。「妊婦さん」の部分を「生まれてくる子どもを囲む大人」などに変更してはどうか。また、年齢に合った文章量の本が読めることが理想だが、それだけが大事なわけではない。「大人でも子どもでも絵本を読んだって良い」という考え方を入れたらどうか。本は心が疲れた時の癒しや、1人になって別世界に没頭できるツールでもある。全年代に言えることなので、そういった部分が計画の中に入ると良い。

事務局：検討する。

委員：「まちなか図書館」とはどういったものか。

事務局：ジオパル、キターレ、権現荘といった市内の施設に絵本や関連する本を置いている。

委員：もっとPRすると良い。

委員：貸出はしているのか。

事務局：施設内での閲覧のみ。「夏休み自由研究」をテーマとしてキターレに本を揃えた時は市民図書館に同じ本を用意した。おしらせばんやホームページ、キターレのSNS等でPRしており、選書は生涯学習で行っている。

委員：上越市では郵便局などで実施している。寄贈が多い。商店や動物園などに置いていることもあるようだ。

事務局：元々は商店街で図書コーナーを設置してくれる店舗を募ったが、なかなか集まらず今のよ
うな形式で実施している。ここから状況を見ながら広げていけたらと思っている。

委員：推進計画の期間が8年間から5年間になって良かった。取組に対する評価はどれくらいの
期間で考えているか。

事務局：連絡会議の中で現状共有をしながら見直していきたい。1年ごとと考えている。

委員：聞き取り調査の結果などから、「活字離れ」や「本離れ」などが聞かれるが、感覚に近い
ものだと思うので数字で表せないか。図書館の利用者数や貸出冊数が下がっていれば、「親
しまれていない」ということだと思う。載せられるか。

事務局：「資料編」に貸出冊数等のデータを掲載する予定。

委員：現状共有する場として連絡会議の話があったが、その前段階でアンケートを園・学校など
各所に取れたらいい。振り返る機会があるのが大事。

事務局：実施の方向で検討したい。

委員：園独自のアンケートが良いか、統一的なものが良いか内容の検討が必要。

委員：統一的なアンケートを園に配り、保護者に対して調査するか否かは園ごとに検討したら良
いかも。園の負担感を考えて実施しなければいけない。

委員：親の負担を考慮し、効率的な集計方法を検討するべき。

事務局：検討して実施したい。

委員：「身近に本がある環境づくり」とあるが、中学校の図書館は使用时以外鍵がかかっている
と聞く。学級文庫はあるのか。

事務局：中学校に確認する。

委員：市外だが、以前は施錠していたが開放した学校もある。学校司書が来る日が月一回と少な

く、できるだけ本に親しんでほしいということで実施に至ったようだ。

委員：本が返却されないなど、管理が難しい所がある。

委員：電算化するなどして管理をしっかりするなど対策が必要。

委員：高校で学級文庫を実施したいと考えているが、不明図書等管理の難しさから実施できていない。団体貸出は学校司書が一人で何十冊も借りに行く手間を考えると、自校の蔵書を活用した方が良いため利用していない。他の学校司書の方は学級文庫をどのように管理しているのか。

委員：学級文庫に置く本は複数蔵書があるものか廃棄寸前のものが多い。その学級だけでしか読まれなかったり、読んでもらえない可能性もあるため新刊を置くことは難しい。学級文庫を置いたら学級担任の意見を取り入れたり、子どもたちに読みたい本を選んでもらったりしている。紛失した場合は学級担任から保護者に話してもらおうが、弁償してもらえない。破損の場合は自分で直さず持って来るよう子どもたちをお願いしている。

事務局：団体貸出の利用によって図書館から離れた施設でも図書館の本を読むことができるため、利用していただけたら。学校図書館に限らず公民館などの利用もある。それについてはお手伝いできることもあるかと思う。紛失等の弁償について、団体貸出の場合は求めている。

委員：団体貸出で借りた本を生徒に貸しても良いか。

事務局：学校の管理の下で貸出していただければ。読み聞かせ団体もそうしている。

委員：紛失を防ぐ対策があれば実施の方向で動けると考えている。

(園の取組について)

委員：「研修の実施は園により異なる」とあるが、一部の園からの意見を元にしており、この表現は誤解を生む。一斉に研修をするのが難しいことは事実。

委員：ボランティアとして入った時、先生方に一緒に楽しみながら園児の様子を見て欲しいとお願いしていた。お話を聞く園児の様子を見てもらうと研修になり良いと思う。先生によっては読んだ本を園だよりも載せたり掲示したりしていた。実施後に振り返りの時間を持つのも良いかもしれない。

委員：読み聞かせボランティアとしては、自分たちは基本ただのおばちゃんであって、保育士さんのようなプロの研修になるか疑問がある。長年やっているので読み方のアレンジはできるが、それが正しいかは分からない。読み方の研修ではない方が良いと思う。

事務局：聞き取りをした中で、他の人の読み聞かせを見た時に「こんな読み方もあるのか。」という気付きがあったという話があり記載している。「読み方の違いによって子どもたちの反応が違うということを見てもらい、気づきとして保育に反映させてもらえたら」という趣旨のもの。今の表記では「研修」が目立ち、レベルが高いように感じてしまうので修正する。

委員：実践者同士の交流が学びになっているということ。その点を計画に入れられたら良いと思う。

委員：啓発面では、道徳心や生活面など教育的観点から書かれた本もあるので、それを保護者に園発信で伝えてもらえると良いのでは。読み物だけではなくトイレトレーニングや好き嫌いに関する本など、偏りすぎずバランスよく啓発できれば良い。

(学校の取組について)

委員：「読書を好きになるきっかけづくり」とあるが、好きにならなくても良い。資料として出会うとか、困ったときに頼りになるとか、そういうところで本と付き合っていけば良いと思う。「本と出会うきっかけづくり」の方が良いかもしれない。

委員：きっかけは作れても定着に繋げる取組みが難しいとあるが、具体的な取組は。

事務局：きっかけづくりに関する取組が多いので、定着に繋げる取組を検討する。

委員：「入りやすい学校図書館」とあるが、教室から遠いなど物理的に入りにくい場合もある。

委員：学校図書館に続く足跡を床に描くなどしている学校もあるようだ。

委員：小中学校の取組に「学校司書の配置改善に向けた取組」とあるが、高校も入れて欲しい。クラス数が減ったことで基準が変わり、それまで週5日開いていたものが週3日になってしまった。それが生徒の読書離れに繋がっている部分もあると思う。また、授業の場所として高校の学校図書館を使用する場合はあるが調べ学習等での利用はあまりない。

委員：他の高校でも、空調が聞いている為教室として使用されている場面があり勿体ないと感じた。現状が分かれば教えていただきたい。

事務局：確認する。

4 総括 委員長、副委員長

5 その他 次回の委員会日程について

6 閉会 (12:00)